



新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株) 伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
e-mail:kinoshita@iseji.net

城址公園の桜が見ごろを迎え、小田原は春色に包まれています。象の「梅子さん」の姿が見られないのはすこし寂しいのですが、桜に彩られた小田原城の美しさは、小田原市民の誇りです。現在文化財として大がかりな整備が進められている小田原城ですが、銅門、馬出門の完成で一段と美しく、風格さえ感じられる姿になっています。あと何年かかるのか、完成が大変楽しみです。4月3日4日はおでん祭りも開催され、花見客で賑わうことでしょう。新九郎通信もお陰様で2年目を迎えることができました。小田原の魅力・アートの魅力を身近な視点でお伝えできたらと心新たにしています。

新九郎 4月の展覧会のご案内

会期	展覧会名	見どころ
3/31(水)-4/5(月)	第3回水墨画女流展	私達は水墨画を縁に三十年もの付き合いで、共に学ぶ女性3人のグループ展。旅行での作品も少なくありません。
4/2(金) イベント	新九郎デッサン会	18:15-20:45 着物のモデル 会費1,000円
4/7(水)-4/12(月)	浅倉貴子×住谷重光	立体と平面作品の共振、個性的な二人が一つの空間で調和と緊張感のある世界を創りあげる
4/14(水)-4/19(月)	堀家和男デッサン展	裸婦、人物のパステル画約30点 新九郎では初個展
4/14(水) イベント	わりさや憂羅フラメンコライブ	前売りチケットは完売いたしました。
4/21(水)-4/26(月)	浩世会日本人形と押し絵展	藤娘、花魁等の日本人形30体・押し絵40点・つるし飾り30本が 春を届けます。
4/28(水)-5/3(月)	広川英夫個展 中国少数民族を描く	原色を使い明るく温かな絵です。中国少数民族・風景・花等の油彩35点新九郎2回目の個展 4/29(木) インド古典舞踊ライブ 13:00~入場無料
4/29(木) イベント	新九郎デッサン会 (18:15~20:45)	モデル:インド舞踊踊り子、会費¥1500

近隣・友の会会員の展覧会情報

フォトカル夢・月例入賞作品展 第12回喜楽舎日本画展 青瓷-鈴木三成展 多田すみえ猫展 丸木俊の絵本の世界 草絵 須藤裕子作品展 鈴木貞子絵画展 大門雅総展(油彩画) 若き作家達の版画展 伊藤トシユキ油絵小泉喜代次水彩展	3/28日(日)~4月24日(土) 4月21日(水)~26日(月) 4月1日(木)~18日(日) 4月19日(月)~5月2日(日) 4月15日(木)~27日(火) 4月7日(水)~12日(月) 4月14日(水)~19日(月) 4月28日(水)~5月3日(月) 4月1日(木)~30日(金) 4月1日(木)~5日(月)	ゾウカ-夢工房MJC アオキ画廊2F ギャラリーさざれ石 ギャラリーさざれ石 寄りあい処こうづ お堀端画廊 お堀端画廊 お堀端画廊 奈良屋カフェギャラリー・宮の下 ギャラリーこま・大磯
---	---	---

インド古典舞踊ライブ 入場無料

4月29日(木) 13:00~

広川英夫個展
会場にて踊ります。

(写真撮影可、
デッサン不可)



ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

田中眞洲「李白 白髮三千丈」

4月7日から11日まで、書家、田中眞洲の展覧会をアートギャラリーで開催します。晩年、鏡に映る白髪頭の自分を嘆く李白の詩を、定年を迎えた自らに重ね、これから若い者の時代を迎え、自分は静かに書道三昧に生きるというのも文化のためだという気持ちをしたためた添え書きがあります。戦後、書道再建のため書壇の大団結に尽力し、60代にして公募展の出品・審査、個展の開催にと活躍する書家の決意が書かれています。眞洲は1992年に100才で亡くなっていますが、遺族の手によって準備され、このたびの回顧展となりました。



「李白 秋浦歌」

白髮三千丈 緑窓似鶴長
不知明鏡裡 何處得秋霜

回 広川英夫 板橋在住

レンガ色の壁に這う緑の葉。玄関先には満開の白梅、作品さながらの色彩豊かな広川邸は、松永記念館のある閑静な板橋にあった。ご案内頂いた2階のアトリエは、解放的で明るい仕事場だった。壁に掛けられたお気に入りの作品、書棚には旅行土産や色とりどりの雑貨が置かれ、作品に登場するモチーフにも出会うことができた。

広川さんの作品を始めて拝見したのは、藤沢の市民ギャラリーだった。展示室にひときわ明るい存在感のある街の景色は、その色彩の豊かさが大変印象に残った。広川さんの故郷長崎の風景だった。タブロー展が乃木坂の新国立に移った時は、あの広い会場で100号が3枚並んだ広川さんのコーナーが目飛び込んできた。どこか懐かしい行ったことはないのに見た事があるような生活の匂いのする作品だった。作品は内閣総理大臣賞という大賞を受賞、驚きと同時に大変嬉しく誇らしく帰りの足取りが弾んだことを思い出す。

広川さんのモチーフは幅広い。中でも山の作品は数多い。駒ヶ岳、浅間山、三原山、桜島。どれも現役の火山である。その中でいまだ描けないのが富士山だという。箱根に泊まり、夜明けから夕暮れまで刻々と変化していく富士山をじっと同じ場所で10数枚描くのだという。しかし、富士山は難しいらしい。九州から出てきた理由が「富士山」を見て描きかかったのだということを知り、富士への強い畏怖の念がそうさせるのか、生まれた時から毎日目にしているものとしてその熱い思いに心打たれた。山を描きながら40年も持ち続けている富士への畏敬の念。私には現在も尚活き続ける活火山は、柔和で温かいしかし激しいエネルギー持つ広川さんのお人柄と重なって見えたの

だった。

ここ数年広川さんは中国シリーズを描いている。6年前初めて訪れた中国雲南省の少数民族が住むこの土地で、日本では感じる事のなくなった生活の香りを感じ、その造型的な美しさにも大変惹かれたのだという。部落ごとに完全自給自足の生活を営む人々は、決して豊かではないが皆ゆったりとした表情で暮らし、刺繍の付いた衣服でおしゃれを楽しむ。庭には放し飼いの鶏・豚・水牛がいて共生する親的な村に、昔の日本の姿があったのだろうか。そういえば中国シリーズには美しい風景の中に人物や水牛がよく登場する。山、建物、いつか人物を描きたいとテーマを追究続けてきた広川さんにとって、この旅には運命的な出会いがあったのかもしれない。



アトリエの後部には2枚の油彩が仲良く並んでいた。明るさと力強い色彩の作品、骨太な線でありながら細やかな人物描写の作品は恩師児玉彦三と並木治予視の作品だと紹介された。広川さんには2人の師がある。秦野の大企業に勤務する傍ら絵描きを目指した広川さんは、20歳で「児玉彦三」との出会いは得た。さらにブラマンクに師事した里見勝三の弟子「並木治予視」につき、本格的に画業の道を追究してこられたのだという。自由に描いてきたスタイルは否定され直される修行時代があり、悩み葛藤した時間は10年にも及んだ。あれから40年、今、教わったことが理解でき役立っている実感があるのだという。絵に対する考え方を児玉先生から、並木先生からは技術を

学んだと振り返る。



そして、色彩が自分のすべてであると言い切る。多い日には1日に10枚を描き上げるという広川さんの作品は、その精力的な筆運びのように明るくエネルギー溢れる色彩が特徴的だ。色の響き合いには尽きるところがないのだという。イーゼルの横の大きなパレットに目が留った。5, 60cmはあろう方形の乳白色の板には絵具がきれいに並んでいた。これは特注の大理石製で、これを使用してから自分の絵に色彩が戻ったのだとうれしそうに話された。磨かれたように汚れない美しいパレットは作家の心のうちを表しているようで、見てはいけないものを見てしまったような大変恐れ多い気がした。

最近水彩の指導をアトリエで始めたそうだ。教える楽しさと同時に絵に対する心構えが変わったと、あくまでも謙虚に語る。水彩では感じたものをパッと表し、エッセンスを定着させるのだと、さりげない言葉が奥深い。石アートで見た丁寧なご指導ぶりから、さぞかし熱心な先生なのだろうと想像する。

今年還暦を迎えた広川さんの画業40年を振り返る個展は、4月28日から新九郎が始まる。

(友の会 木下和子)

3月の事

小田原に美術館が欲しいと考え、懇談会を始めた。私は有名無名を問わずまだ見ぬ良い絵を見るのが好きで、できる限り見に行く。良い絵を描きたいという気持ちもある。しかし美術館が欲しいというのは、そういう個人的な気持ちから生まれたものではない。日本にせよ世界にせよ、有名な美術館から小さな美術館までその多くは富豪のコレクションから始まっている。資力も持たぬ者が何故そんな事を言い始めたのか。それは一番には人口20万の都市、西湘地域では35万人の人口を有する町に美術館が無いのはおかしいではないかという気持ちからだ。小田原は西相美術協会を始め、絵を描く団体・グループが多くあり、小さな町の割には画廊も沢山ある文化的な町である。そして、井上三綱画伯の残されたアトリエと作品もある。イサムノグチにも称賛された画家は、一地方画家として評価されるような作家では決してない。現在画伯の主要な作品は平塚美術館と九州八女に収蔵されている。小田原にも松永記念館他に数点の作品はあるものの、残された作品が他所に行ってしまうとそれは取り返しのつかないことである。せめてアトリエと小品・デッサン類だけでも生涯の大半を過ごした小田原に残すべきである。それもできないとなると、我々は自らの生活する小田原の町・人を大事にできない、大切なものの欠けた町になってしまう気がするのだ。小田原に住み、十数年ギャラリーに関わる中で、美術館のことを何とかしなければ何か責任が果たせないような、こんなことではいけないのではないかという気持ちにかられるのである(5月号に続く) (木)

ギャラリー新九郎デッサン会



春の特別企画(インド古典舞踊家・茶谷祐三子さんをモデルに迎えて)
平成22年4月29日(木)
18:15~20:45
会費 1500円(特別企画料金)
定員 20名(定員オーバーが見込まれますお早めにお申し込みください)
(鉛筆、木炭、水彩、その他)但し油絵不可
申込先 ギャラリー新九郎 木下
携帯 090-9324-4084

ギャラリー新九郎スペシャル講談 田辺一邑「二宮尊徳」



2010年5月7日(金)
18時開場 18時半開演
入場料 1000円(前売り)当日1200円
チケット発売所 伊勢治書店全店
【プロフィール】97年田辺一鶴に入門
09年真打ちに昇進、江戸文化歴史検定2級

第166回林の中のコンサート 弦楽三重奏の真髄



2010年4月17日(土)
13:30開場 14:00開演
開場 南足柄グリーンヒル堀家邸
入場料 大人3500円 学生2000円
申込先 堀家と男(4/15までに)
TEL(ルス電)・FAX 0465-73-3951

第8回西さのみ街なみ・ふる里再発見!展 関連事業 まちあるき

参加費 無料
小雨決行(強風・雨天の場合は中止)
1回目4月3日(土)
(雨天の場合4月10日土に順延)
根府川・片浦コース(約3時間)
【集合場所】JR根府川駅13:00
【終了予定】早川漁港着16:00

2回目5月15日(土)
街角博物館コース(約2時間)
(雨天の場合5月22日に順延)
【集合場所】JR小田原駅東口・金次郎館前13:00
【終了予定】銅門広場着15:00
お申込み先 木下携帯 090-9324-4084